

いま、商店街がおもしろい

シャッターショップが増える中でも商店街のみなさんはさまざまな企画でがんばっています。商店街へ足を向けてみませんか！

商店主がプロの技を教えます

柳盛ほっと!!クラブ

西武新宿線西武柳沢駅北口に下りると、左右に長く伸びる道に商店が軒を連ねています。大型店のチェーン店がないせいか、どことなく懐かしさ漂う商店街。ここが「ほっとストリート」と名付けられた、西東京市でも有数の柳盛会柳沢北口商店街です。

この商店街は魚屋、クリーニング、花屋、美容室などさまざまな業種の商店が集積しています。「お客さんとのヒューマンタッチがなければ大型店には勝てない。地元の商店街を見直して、より親しみを持ってもらいたい」と長年、駅前で喫茶店「宮殿」を経営する豊山一男さん等は、店主や地元の達人がプロの技を教える教室「柳盛ほっと!!クラブ」を企画しました。



包丁さばきも真剣そのもの。お父さんも若い奥さんもガンバって！

この企画が商店会の地域サービス等への事業展開を応援する、西東京商工会の「シナジースキーム事業」(東京都補助事業)のモデル商店街に応募して採用されました。これは商店街と市民と地域のNPOや活動団体とが3者協働して、地域を良くしていくという取組みです。

商店会加盟店、商工会、多摩北部診断士会、市民で委員会を作り、だれでも入会でき、入会金、年会費無料、月1回程度、近隣の公共施設で開催する教室を企画しました。商店街は魚の調理やフラワーアレンジ、アロマ、住まいの補修など達人の宝庫です。これら達人が教える技を暮らしに活かすことができれば主婦にとっても有益ですよ。

9月中旬に会員募集のチラシを1万枚撒いたところ、155名の入会者、練馬区からも申込みがありました(現在は200名超)。会員には次回のお知らせと教室の報告が届きます。「会員300名を目標にして、その方たちも参加するだけでなく、企画にも加わっていただき、地域の中で特技を持つ方にも伝授してほしい」と豊山さん。



魚の達人 下田さん兄弟



こちらは刺身のできあがり

アジのさばき方を教わる

さて「柳盛ほっと!!クラブ」のスタートは10月22日、「お魚のさばき方教室」。達人は丸清水産の下田清司さん。この地で50年以上親しまれている老舗の鮮魚店です。会場は調理室の関係で東伏見コミュニティセンター。材料費500円。

参加者は19名、うち男性1人。定年退職後2年、奥さんが申し込んだという広田さん「初めて魚を扱います。前からやってみたかったですよ」と楽しそうです。

はやる気持を抑え、まずは大切な包丁研ぎから。こちらの指導は金物や生

活用品を扱うライフスポットマルヨシのご主人、森下さん。「角度をつけないで、軽くこするだけでいいですよ。月に1度はマメに研ぎましょう」。持参した包丁を参加者自身が研ぎますが、ぎこちない手つきで、おっかなびっくりの人も。

いよいよ魚の出番。築地で仕入れた新鮮なアジを開いて干物を作るのですが、現社長の下田さんの弟さんも参加して兄弟で息のあった講師ぶり。さすがプロの技、包丁の先と元とを使い分けて、またたく間に開きます。血合いを除かないと臭みが残るので、歯ブラシを使って除きます。その後開いたアジを塩水に漬けます。魚をさばくのは初めてという人も多いのですが、中には「魚は丸清さんでしか買わない。その都度調理を教えてもらえらるから」という手さばき鮮やかな主婦もいました。

次は3枚におろしてさしみ作り。難しいのは皮ひき、皮を下にして包丁の背を使ってひきます。下田さん兄弟は各調理



「美味しい」と試食タイム

台をまわって、懇切丁寧に教えます。そして盛り付け試食。「脂がのつていて新鮮、買ってきただけは違う」「今晚作らないとやり方忘れる」など皆さん自分で作った味は格別のようにでした。

「作り方を覚えたい人たちが集まっているので、皆熱心で覚えが早い。料理を

商店街の中に地域のコミュニティ拠点

光ヶ丘ふれあいスペース

花小金井駅南口から徒歩5分、光ヶ丘通り商店街に今年4月、空き店舗を活用した「光ヶ丘ふれあいスペース」がオープンしました。

旧丸池ショッピングセンターを小平商工会がリフォームし、以前から営業中の魚店鮮魚店の場所を除き、一括借り上げした、地域のコミュニティ拠点として活用できる施設です。

東西に長い建物は通路を挟んだ右側に創業を支援するチャレンジショップ(4坪)(現在は「北川とみお邦楽器」が営業中)、子育て広場「きららはうす」(16坪)、交流サロン(5坪)、魚店鮮魚店(7坪)が並び、とてもユニークな賑わいの店舗。左側が多目的に誰でも借りられるイベントゾーン(17坪)とその奥が厨房設備(6坪)になっています。



光ヶ丘ふれあいスペース入口(左側がイベントゾーン)小平市鈴木町 2-175

イベントゾーンは1日から14日間連続で借りることができ、ちょっと試みに店を出してみたいと開業を目指す人、会議やイベントでの利用など商工会に申し込めば1日4千円(商工会会員は3千円)、半面利用はこの半額で借りられます。これまで主婦グループの手芸品販売やシャボンコンサート、小平第三中吹奏楽部のフリーマーケット、教室、ハーブティの販売などに利用されています。商店会



イベントゾーンで開催された創業塾の様子(10月)

イベントとして新鮮野菜の夏の朝市や子ども向けの緑日、「ローマの休日」の映画会なども催されました。

魚店店主の広井良作さんは、ショッピングセンター内の肉店や豆腐店が閉店していった中で、1店だけで頑張り、この建物の変遷を見てきました。「明るくなって賑やかになったね。この前グループの手作り品販売のときはお客さんがいっぱい来て、入場制限するほどだったよ。でもまだここを知らない人が多いから、もっと使ってほしいね」と話します。

イベントゾーンの利用はまだまだ予約は満杯にならず、家賃をカバーできない状況です。みなさんのアイデア、ユニークな企画で通りの賑わいを創り出してみませんか。12月20・21日は全国物産展が開かれます。